令和6年2月29日

保護者・地域の皆様

家庭数

練馬区立大泉小学校
校長　佐々木　秀之

令和5年度　練馬区立大泉小学校　教育活動アンケートの結果について

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございます。
さて、昨年12月18日から1月13日まで実施いたしました教育活動アンケートの集計結果が下記のとおりまとまりましたのでお知らせいたします。教育活動アンケートの結果を謙虚に受け止め、より一層、信頼される学校づくりに努めてまいります。今後も皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
※今年度、教育活動アンケートの回収率は、約70%でした。今後とも皆様の意見をより反映させていくように努めてまいります。よろしくお願いいたします。
【下記一覧表の数字について】
保護者・地域・教職員欄･･･①そう思う　②どちらかといえばそう思う　③どちらかといえばそう思わない　④そう思わない　⑤わからない　のうち、
①及び②の肯定的な評価の割合
低学年・高学年の児童欄･･･①よくあてはまる　②あまりあてはまらない　③わからない　のうち、①の肯定的な評価の割合

【字体や網掛けの意味について】
太字下線の数字･･･昨年度と比較して5ポイント以上肯定的な評価の割合が増加した項目
太字斜体下線の数字･･･昨年度と比較して5ポイント以上肯定的な評価の割合が減少した項目

四者による学校評価アンケート結果			保護者			低学年			高学年			地域			教職員			◇学校の自己評価と三者の比較 ◆学校評議員からの意見 ☆学校の来年度の課題
			5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	
			405名 70.4%	442名 78.5%	R5 －R4	277名	264名	R5 －R4	275名	274名	R5 －R4	9名	7名	R5 －R4	34名	34名	R5 －R4	
学校全体	1	【学校の教育目標】 ○学校の教育目標や目指す学校像は、子供や地域の実態に合った適切な内容となっている。（保護者・地域・教職員）	89.2%	90.0%	−0.8%							88.9%	85.7%	3.2%	100.0%	97.0%	3.0%	◇保護者・地域・教職員共に肯定的な評価の割合が高く、学校の教育目標や目指す学校像はおおむね児童や地域の実態に即したものと考える。 ☆全教職員の理解の下、全教育活動を通じて、一層知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供の育成に努める。
	2	【学校生活の様子について】 ○子供たちの学校での様子は楽しそうである。（保護者・地域・教職員） ○学校は、楽しいですか。（児童）	95.4%	94.3%	1.1%	84.5%	76.1%	**8.4%**	72.0%	71.9%	0.1%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	94.2%	**5.8%**	◇保護者・地域・教職員の肯定的な評価はいずれも90%以上である。児童の評価は昨年度と比較すると低学年においてポイントが上回った。 ◆小学校で得られる知識や経験は何物にも代えがたいと考える。今後も児童にとっての教育活動を展開してほしい。 ☆学級における指導を基盤とし、全教職員で児童を見守っていくことで人間関係を一層深め、児童が楽しく学び合い、友達と伸び伸び関わり合うことができるよう、取り組んでいく。そして、どの児童にとっても「学校が楽しい」と感じられる学校づくりに邁進する。
	3	【学校の教育活動について】 ○学校の教育活動には満足している。（保護者・地域・教職員） ○あなたは、大泉小が好きですか。（児童）	91.3%	88.5%	2.8%	87.7%	82.2%	**5.5%**	70.2%	69.7%	0.5%	100.0%	100.0%	0.0%	91.2%	73.5%	**17.7%**	◇保護者・児童・教職員の肯定的な評価がいずれも昨年度より上回った。地域においては昨年度に引き続き評価をいただけている。 ☆学級における指導を基盤に各教科や特別活動、学校行事等における達成感や成就感を味わわせる指導の工夫を行い、主体的に学習に取り組む能力と態度を身に付けさせ、自己有用感と学ぶことの楽しさを体得させる指導により一層取り組む。さらに、教員の学習指導力の向上及び学級経営の充実を図る。
	4	【教職員の対応について】 ○教職員は、誠実に子供や保護者に接している。（保護者・地域・教職員） ○先生たちは、あなたのことを考えたり、話を聞いたりして接してくれますか。（児童）	94.3%	94.4%	−0.1%	77.6%	73.5%	4.1%	73.5%	75.9%	−2.4%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	94.2%	**5.8%**	◇保護者・地域の肯定的な評価はいずれも90%以上であるが、児童の評価は80%を上回っておらず、高学年においては昨年度よりもポイントが下回っていた。 ☆教職員一人一人が児童や保護者の方と真摯に向き合い、その思いや願いに耳を傾けることが第一の基本である。教職員の働き方改革を通して児童と向き合う時間の確保に努め、全教職員で見守り、一人一人の児童に寄り添った関わり方が必要である。担任だけでなく、養護教諭、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員等との連携をより一層深めていく。
	5	【学校生活の様子について】 ○子供たちは、すすんであいさつをしたり、正しい言葉遣いをしたりしている。（保護者・地域・教職員） ○あなたは、すすんであいさつをしたり正しい言葉づかいをしたりしていますか。（児童）	79.0%	83.3%	−4.3%	61.7%	61.4%	0.3%	67.3%	67.9%	−0.6%	88.9%	85.7%	3.2%	91.1%	70.6%	**20.5%**	◇全体的に挨拶や言葉遣いについては高い水準にあるとは言い難く、教職員の認識との差異が見て取れる。挨拶の励行や正しい言葉遣いなど、意識を高められる環境づくりや働きかけが必要である。 ◆挨拶について、高学年が手本となってくれるとよいが、それには低学年からの指導が大切であり、低学年は家庭の環境を受けやすいので、学校だけでなく家庭でも意識して指導してもらいたい。 ☆相手より先に挨拶する、来校者にも挨拶する、相手に伝わるように返事をするなど、高学年がよい手本となるよう、指導していく。また、正しい言葉遣いについてもふだんから意識させるとともに、家庭での協力を一層求めていく。さらに、教職員自らよりよい挨拶、よりよい言葉遣いを遂行していく。
	6	【学校と保護者・地域の連携について】 ○保護者は、全体的に学校に協力的である。（保護者・地域・教職員）	83.7%	82.3%	1.4%							55.6%	57.2%	−1.6%	91.2%	91.2%	0.0%	◇保護者・地域の方は学校の教育活動に理解を示し、支援をいただいている。地域に開かれた学校として、更に教育活動への協力を得られるよう努める必要がある。 ◆コロナ禍をへて、保護者同士のつながりが減り、関係性も希薄になっているように感じる。自分の子供だけ、という視点ではなく、保護者同士の縦・横のつながりを深めていってほしい。 ☆家庭・地域との連携・協力を一層重視し、地域に開かれた取組を推進する。また、家庭との連絡・相談・協力を大切にしながら、学校、家庭の教育力を最大限に発揮できるよう情報を発信し、啓発及び共通理解を図る。
	7	【学校の教育環境について】 ○学校の教室や廊下、特別教室、校庭などの環境整備は行き届いている。（保護者・地域・教職員）	88.4%	86.4%	2.0%							100.0%	100.0%	0.0%	88.2%	91.2%	−3.0%	◇保護者・地域においては昨年度より評価が上回っていた。教職員においては、教室や廊下、特別教室などの環境整備を推進し、児童にとって過ごしやすく学びやすい環境にしようという思いが見受けられる。 ☆常に整理整頓がなされた学校であるよう、今後も全教職員で校舎、校庭、校内施設・設備の整備に努める。また、月1回の安全点検での意識を高めるとともに、日々の清掃活動にも力を注ぎ、安全・安心で、気持ちよく学習ができる環境の整備に努める。
	8	【学習について】 ○学校は、子供の学力の定着・向上のために工夫した授業を行っている。（保護者・地域・教職員） ○学校の勉強は、わかりますか。（児童）	88.4%	86.6%	1.8%	82.3%	82.6%	−0.3%	82.2%	82.1%	0.1%	88.9%	85.7%	3.2%	97.1%	94.1%	3.0%	◇保護者においては、おおむね85%以上の肯定的な評価であった。しかし、児童は昨年度とほぼポイントが変わらない結果であった。学習内容の充実について更に努めていく必要がある。 ☆教員の学習指導力の向上に努め、児童がより理解しやすい指導体制を工夫するとともに、各教科における適正な標準時数の下、十分な指導時間を確保する。また、学力向上支援講師の活用、習熟度別指導の充実、ICT活用の推進、校内研究による教師の授業力向上に向けた取組などから、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着に努める。
	9	【生活指導】 ○授業は、話の聞き方や発表の仕方等の学習のルールが守られており、落ち着いた雰囲気の中で学習が進められている。（保護者・地域・教職員） ○あなたは、学校できまりを守って、落ち着いて勉強や生活をしていますか。（児童）	84.5%	81.2%	3.3%	74.7%	67.8%	**6.9%**	62.9%	65.0%	−2.1%	77.8%	71.4%	**6.4%**	91.2%	79.4%	**11.8%**	◇低学年児童・保護者・地域による肯定的な評価は共に増加したものの、高学年児童においては昨年度よりも評価が下回っていた。 ☆一人一人の人格を尊重しながら規範意識を育むなど社会的資質や行動力を高めるため、学級経営の充実を図る。挨拶の仕方や学習の決まりを教員同士で共通理解を図り再確認するとともに、指導内容を統一し、毅然とした対応の徹底に努める。学校での指導だけでは限界があるため、家庭への啓発、地域との協力を一層働きかけていく。

学習指導について	10	【習熟度別指導】 ○３年生以上の算数習熟度別指導は学習の定着に効果をあげている。（保護者・地域・教職員）	59.5% (3年以上) 76.5%	59.3%	0.2%							55.6%	42.8%	12.8%	73.6%	67.3%	6.3%	◇習熟度別指導について肯定的な評価の割合が低いのは、1･2年生の保護者の回答も含まれているためであるが、3年生以上の回答を総数とした割合で見てみると、約76%の評価をいただいていた。 ☆学習内容の習熟の程度に応じた指導、児童の興味･関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習活動を取り入れた指導はもとより、教員間の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、指導の充実を図り、児童の基礎的･基本的な学力の向上が見えるよう努める。
	11	【朝学習・朝読書】 ○朝学習は効果をあげている。（保護者・地域・教職員）	42.5%	43.4%	−0.9%							44.4%	42.8%	1.6%	61.7%	61.6%	0.1%	◇保護者や地域の肯定的な評価の割合が低いのは、朝の時間の活動のため、活動内容が見えづらい、効果が上がっていることが分かりづらいということが挙げられる。朝学習の活動内容や効果について、広く発信していく必要がある。 ☆朝学習の時間をしっかり確保し、基礎的･基本的な学習内容の定着に向けて計画的に実施する。また、学級文庫の充実を図るとともに、朝読書の時間には担任も読書をし、読書における環境整備に努める。さらに、家庭や地域の理解を得るために、活動状況についてホームページなどで情報を発信する。
	12	【道徳教育】 学校は、道徳の時間を含めた全教育活動をとおして、命を大切にすることや思いやりの心をもつ指導に努めている。（保護者・地域・教職員） ○あなたは、命や人の気持ちを大切にしていますか。（児童）	82.7%	81.7%	1.0%	82.3%	82.2%	0.1%	81.8%	83.2%	−1.4%	88.9%	100.0%	−11.1%	97.1%	88.2%	8.9%	◇保護者･地域共に、肯定的な評価の割合が80%を超えている。児童による評価は昨年度とほぼ同様の割合を示していた。 ☆引き続き、道徳の時間の指導方法の工夫･改善を推進することはもとより、授業公開や道徳授業地区公開講座を通じて、道徳教育について家庭や地域との連携を深めるため、児童･保護者･地域が一体となって参加できる指導環境づくりに努める。さらに、全教育活動を通じた自他共に大切にする心の育成、人権教育や生命の安全教育などに全教職員で努めていく。
	13	【特別活動】 ○通常の教育活動、運動会、音楽発表会等では、友達と協力したり、一人一人の個性が発揮されたりするような場が設定されている。（保護者・地域・教職員） ○運動会や音楽発表会などの行事や、クラブ活動・児童会活動は楽しいですか。（児童）	81.5%	82.0%	−0.5%	87.7%	78.4%	9.3%	83.3%	81.8%	1.5%	88.9%	100.0%	−11.1%	97.1%	88.2%	8.9%	◇保護者、地域においては80%以上の肯定的な評価の割合であり、児童においても昨年度よりも評価が上回っていた。児童が一人一人のよさや個性を発揮でき、自己有用感や連帯感、成就感をより一層実感できるような工夫を講じていく必要がある。 ◆働き方改革が進む中での行事の精選はあるかと思うが、コロナ禍以前に行っていた行事と比較し、子供の行事に対する受け止め方に差異がないように工夫してもらえたらと思う。 ☆教育活動や行事において、児童がより自律的、主体的、協働的に取り組む活動となるよう工夫を行う。
	14	【特別活動】 ○学校は、感染症対策を講じながら、通常の教育活動や特別活動の活性化に努めている。（保護者・地域・教職員）	86.4%	78.7%	7.7%							100.0%	85.7%	14.3%	100.0%	79.4%	20.6%	◇保護者･地域において、昨年度と比べ肯定的な評価の割合が増加している。状況に応じた感染症対策をとりながらも、通常の教育活動や特別活動の活性化を図る必要がある。 ☆児童が活躍できる場を意図的･計画的につくることに努め、責任感及び自己有用感、成就感を培いたいと考えている。学校行事、委員会活動の仕事内容の精選、魅力のあるクラブ活動の創設、より自発的な児童会活動など、所属する全ての児童が責任を果たしたり、成就感が得られたりするよう工夫する。
	15	【学校公開】 ○保護者会、個人面談、運動会、音楽発表会等の実施日は、保護者ができるだけ参加しやすい曜日に設定されている。（保護者・地域・教職員）	91.9%	88.9%	3.0%							88.9%	85.7%	3.2%	91.2%	91.2%	0.0%	◇保護者･地域･教職員共に、肯定的な評価の割合が高いものの、実施日について更に参加しやすい曜日設定について検討していく必要がある。 ☆次年度4回実施する第2土曜日の学校公開を中心に、引き続き各種行事等を年間にバランスよく配置する。また、オンラインを活用した保護者会や個人面談など、状況に合わせた参加の仕方ができるような工夫を検討していく。
学校生活全般	16	【危険予知、回避】 ○学校は、事件や事故を未然に防ぐために、具体的な取組（保護者や教職員の名札の着用、情報モラル講習会など）や避難訓練の充実に努めている。（保護者・地域・教職員）	90.6%	84.3%	6.3%							88.9%	85.7%	3.2%	100.0%	94.2%	5.8%	◇保護者･地域･教職員の肯定的な評価の割合が昨年度よりも増加している。今後も、学校が児童にとって安心･安全な場となるよう、危機管理意識を高くもちながら職務にあたる必要がある。 ☆今後も、自立心･自律性をはぐくみ、主体的に考えて行動できる児童を育成するよう努める。また、避難訓練等の取組について次年度もホームページなどで情報を発信していくとともに、保護者にも実態を知ってもらえる機会を設定し、家庭との連携が深められるようにする。
情報発信、家庭・地域との連携	17	【学校と保護者・地域の連携】 ○学校は、家庭や地域との連携に積極的に取り組んでいる。（保護者・地域・教職員）	79.2%	75.8%	3.4%							88.9%	85.7%	3.2%	97.1%	94.2%	2.9%	◇保護者･地域･教職員の肯定的な評価の割合が昨年度よりも増えていたものの、更によりよく連携していきながら意思疎通を図り、共通認識の下で教育活動を推進できるようにしていく必要がある。 ◆教員ではなくても家庭や地域でやれることを行っていくことが、今後ますます必要になってくると考える。 ☆保護者との連携を密にするとともに、保護者会や個人面談の時間をできる限り確保し、内容の充実を図ることで、地域･保護者の願いや思いを引き出すようにする。
	18	【広報】 ○学校は、保護者会や個人面談、学校だより、ホームページなどを通して子供たちの様子を分かりやすく伝えている。（保護者・地域・教職員）	90.7%	90.2%	0.5%							100.0%	100.0%	0.0%	94.1%	94.1%	0.0%	◇保護者および地域から肯定的な評価をいただけていると考えられる。更に細やかに情報発信をしていけるよう、努めていく必要がある。 ☆今後も学校だより、学年だより、学級だよりなどの充実はもとより、学校ホームページの閲覧を定着させるための工夫に努め、定期的に更新する。また、ホームページやメールなどの周知とともに、地域の方に対しても情報発信できるツールを作れるようにしていく。
健康教育	19	【健康教育】 ○学校は、子供の体力向上や健康の増進に積極的に取り組んでいる。（保護者・地域・教職員） ○学校では、たくさん運動をしたり、健康に気をつけたりして生活していますか。（児童）	87.2%	87.5%	−0.3%	77.3%	82.6%	−5.3%	66.2%	65.3%	0.9%	88.9%	100.0%	−11.1%	85.3%	85.3%	0.0%	◇保護者･児童･地域において、昨年度よりも割合がほぼ変わらない、または下回っていた。感染症対策が慣例的になってきた意識への対応、また、体を動かすことの心地よさを味わわせる工夫など、健康および体力向上に関する学習内容について工夫していく必要がある。 ☆保健教育とも連携して健康な生活習慣について考えさせていく。また、持久走月間、なわ跳び月間などの取組を通じて体力の向上を図るとともに、体育学習の指導内容の工夫を体育主任を中心に推進していく。
小中一貫教育	20	【小中一貫教育】 ○小・中学校間の円滑な接続を図るために小中一貫教育を推進していることを知っている。（保護者・地域・教職員）	53.6%	57.4%	−3.8%							77.8%	71.4%	6.4%	97.1%	94.1%	3.0%	◇肯定的な評価の割合が全体的にあったものの、取組内容について「分からない」という回答が保護者･地域において多数見られた。 ☆学校だよりやホームページなどを活用して、保護者や地域に対する小中一貫に係る取組の情報発信等、周知できるよう努める。
特別支援学級との交流	21	【特別支援学級との交流】 ○学校は、五組と１，２，３組との交流及び共同学習を計画的に進めている。（保護者・地域・教職員） ○五組のお友だちと勉強したり、遊んだりすることができましたか。（児童）	57.3%	53.2%	4.1%	35.0%	33.0%	2.0%	52.7%	46.4%	6.3%	66.7%	71.4%	−4.7%	76.5%	67.6%	8.9%	◇保護者･児童における評価の割合が昨年度よりも上回っていた。感染状況を鑑みながらも、できる取組を推進してきたことの表れかと推察されるが、割合としては高くはないため、更に交流活動の内容を深めていく必要がある。 ☆交流及び共同学習における年間指導計画を基に、よりよい交流活動が行えるようにしていく。また、日常的に休み時間に一緒に遊んだり、同じ教室で授業を受けたりする経験を積むことができるよう、努めていく。

四者による学校評価アンケート結果	保護者			低学年			高学年			地域			教職員			◇学校の自己評価と三者の比較 ◆学校評議員からの意見 ☆学校の来年度の課題
	5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	5年度	4年度	差	
	405名 70.4%	442名 78.5%	R5 −R4	277名	264名	R5 −R4	275名	274名	R5 −R4	9名	7名	R5 −R4	34名	34名	R5 −R4	